

きっぷぶ新聞

発行日 2023年8月21日
発行者 藤松美瑚

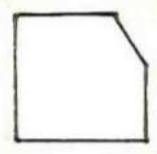
もと厚い紙で作られていた硬券が主流でしたが、一九二六年

切符用ハサミ

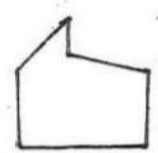
切符用ハサミは駅で切符に切り込みを入れる道具です。切った形を「こん形」と言います。
↓相鉄線の「こん形」↓



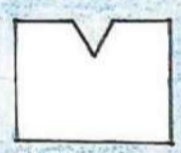
緑園都市駅



二俣川駅



海老名駅



横浜駅



相鉄線にはPASMOいつから?

相鉄線がPASMOを使えるようになったのは、2007年3月18日から他の私鉄の導入と同じです。また相鉄線のPASMO導入に合わせて、相鉄グループ全てのバスでもPASMOの利用が可能となりました。

編集後記

私は、いつも使っているICカードやきっぷの普段あまり知らないことを調べて、新聞にしてみました。電車に乗るのに欠かせないきっぷやICカードは改善点問題などを解決してきて、沢山進化してきたということが分かりました。これからも沢山の進化を続けて、もっと便利になってほしいです。

紙からICへパトントッチ!

日本へようこそ

きっぷの誕生

日本では一八七二年の鉄道創業時に始まりました。新橋と横浜間鉄道開業式典の入場券が日本初のきっぷです。日本では開通当初からエドモンソン型のきっぷを採用し、活字体などのデザインもイギリスと似ていました。後に日本できっぷを製造するようになり、厚紙が初期のきっぷは粗い厚ボール紙の表裏に色のついた和紙などを貼り合わせたものでした。

きっぷは鉄道発祥の国イギリスで生まれました。最初は手書きで目的地発車時刻・運賃・名前などを書くものでクレームも多く、列車遅延の原因になるうえに、売上金のチェックも困難でした。これらの問題を解決したのが、一八三七年トーマス・エドモンソンが発明したシステムで発着駅名・運賃・通し番号などの版を木枠にセットし、大槌で打ち、ボール紙に印刷する木版印刷でした。

ICカード活動

二〇〇二年、日本で一番最初の交通系ICカード「Suica」が誕生しました。次に二〇〇七年、首都圏の地鉄と私鉄各社が加わって「PASMO」が登場しました。その後、全国主要都市でも、地下鉄が中心となって交通系のオリジナルICカードが普及しました。二〇一三年には全国十種類のICカードで相互利用がスタートしました。

きっぷから進化

頃に薄いロール紙に印字するタイプの軟券が主流となりました。一九六〇年代の経済発展にともない、電車を利用する人が増え、朝夕の混雑時に改札に長い列ができました。これを解決するために、一九七〇年から一九九〇年にかけて磁気型のきっぷを用いた自動改札機の導入が進みました。

これからの! next

新常識!?

QRコード

JR東日本はQRコードで通過できる自動改札機を二〇二四年に使う方針を固めています。導入の狙いは磁気切符の廃止によるコスト削減です。磁気切符は改札機のメンテナンスを含むコストを大きく削減でき、改札機を全駅に導入する予定です。前もって顔を登録しておくことで、スムーズに改札を通過できるようになります。

顔認証

大阪メトロは二〇二四年度末までに顔認証を使った改札機を全駅に導入する予定です。



豆知識

お見送り等の場合に駅に入るために買う切符があります。入場券というもので、相鉄線の場合はおとな160円、子供80円です。この切符では電車に乗ることはできません。PASMOで入ると後でお金をとられてしまいます。

